常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年１月１５日(金)
その２

◇ 二度目の緊急事態宣言を受けて

13日（水）に菅総理大臣より、新型コロナウイルス感染症に係る「本県の緊急事態宣言・特定警戒都道府県への追加」が発令された。

心配な点は、関東圏のみならず、本県・本市でこれだけ急加速度的に感染者が増加しているのに対し、国民・市民の切迫感が薄れてしまっていることである。新型コロナ感染症という言葉を耳にする機会が増えたことによる「音の響きの慣れ」が、危機感を薄めてしまっている。

緊急事態宣言の発令も二度目で、これにも「慣れ」てしまわないか懸念が残る。

国や県の店舗の自粛営業等の指示を守ることが大事ではなく、事の重大さを受け止め、あくまでも個人が気をつけて生活することこそ最適解なのである。
今一度、子供の範となる大人が、大人こそが気を引き締めたいものだ。

対して、子供は大変けなげである。学校の新しい生活スタイルをすっかり自分のものとし、自分では気づかぬ間に自己衛生管理力を高めている。これも、毎日継続して行ってきた徹底した手洗いや、確実なマスク装着が、「慣れ」によって「行為に対する面倒な気持ち」を薄めた結果だ。間違いなく大人たちより徹底的に行っている。こうした子供たちの姿に、本校保護者の高い家庭教育力が見える。本当に学校としては有難いことである。

報道によれば、市内の小中学校で教職員の感染が報告された。自分の見解としては、「2000人を超える関係者がいるのに、よくここまで出なかったものだ」というのが正直なところだ。本市の教職員のレベルの質も高い。本校の教職員の状況を見ても、本当に気をつけて生活しているのが分かる。

しかし、岡崎藤田保健衛生大病院のある学区の学校がそうだったように、報道が一旦世に出てしまうと、情報は瞬く間に拡散し、誹謗中傷のやり玉にあがる可能性もある。本人からしてみれば身を切られるようなつらい情報公開であるが、情報を伝えることで目の前の子供たちを守る最適解なのだ。悪口は慎むべきだ。

今こそ、さらに褌（ふんどし）の紐を締めなおす段階にあると教職員が肝に銘じ、子供たちがけなげに行っている行為をエネルギーとしながら徹底した感染症対策を講じていく。